



2023年 3月30日
第180号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横地申 15号 第5回 団体交渉報告（3月24日）その②

「懲罰的日勤教育を直ちにやめ、ヒューマンファクターの観点による原因究明に基づき早期の復帰を求める緊急申し入れ」

本来の添乗の目的って何？ 「脱退強要？」「支配介入？」

4. 組合活動への介入ととれる指導員の添乗中の言動を調査し、是正すること。

【会社回答】本申し入れに関する一連の指導・教育については、労働組合の運動方針や活動に介入するものではない。



「掲示に大々的に出したら他区の乗務員も見る。当該運転士がこの間の日勤でハラスメントと感じていたなら、この間やってきたことの意味がなくなる。復帰の目途も立ってきた矢先なのにあんな感じでやられると当該運転士も最悪な結末になる可能性もありますよ」

組合側	会社回答
指導員の発言の調査結果と認識を示すこと。	本件に関わる会話はあった。会社としては介入を意図したものではない。あくまでも社員間の会話。添乗中の会話であり、一字一句残っていない。つまびらかにできるものはない。
どのような意図で発言しているのか。	本人が乗務復帰を目指して頑張っている中で、教育に携わっている指導員として「周りの皆さんにも協力してほしい」という思いで発言したと聞いている。
掲示物への発言は組合への介入ではないか。	そのようなセンテンスで発言していない。
めったに添乗に来ないなかで、やっと来てくれた。発車3分前に「怒っていますよね」と言われて何のことかわからなかった。添乗の本来の目的は何か？	内勤から離れたところで一人で仕事をしているので、仕事ぶりを見るためである。
目的を持った添乗しか来ない。何らかの意図がある。脅し、牽制と感じた。田町センターから東京駅までの7分間と折り返し時間の7分間、合計14分間、圧にしか感じなかった。「組合が介入すると乗務復帰が延びるぞ」「最悪の結果になるぞ」「痛い目にあうぞ」と感じた。添乗指導でない。	捉え方は否定しない。添乗指導として、乗務ぶりを見て指摘することがあれば指導する目的で添乗している。結果的に指摘することはなかった。圧をかける意図はなかったと聞いている。
14分間、乗務員が「圧にしか感じない」となれば、添乗指導として問題があるのでないか。	指導員として教育に直接携わっているので「周りにも協力してほしい」という強い思いがあったからそのような会話になった。
思いがあったら何を言ってもいいのか？思いがあるなら、その思いをそのまま伝えたら良いではないか？	「こう話せば良かった」とは、ここでは深めない。乗務復帰に向けて強い思いで携わっているのでコミュニケーションの一環。
これは通常のコミュニケーションではない。労働組合に対する圧力だ。別の場面でも、他の指導員が脱退懲罰している。過去の日勤教育でも指導員から「考えた方がいい」と言われている。	脱退を強要した事実があると会社としては認識していない。組合に介入することもないし、「脱退しなさい」なんて言っていない。受け取りの話。そういう意図は一切ない。不当労働行為は是認できない会社のスタンスに変わりない。引き続き必要な指導・教育はしていく。
労働組合に所属している指導員が減少しているのはそれが理由か。	労働組合の加入の有無で差別・区別はしない。

申15号交渉は5期日、のべ約19時間の議論をしたものの「ハラスメントの認識」「教育の内容・期間」「管理者や指導員の発言についての認識」など、すべて会社との認識の一致が図れませんでした。全項目を「決裂」とし、交渉は終了しました。

圧力を感じる「指導添乗」で安全は守れない！
責任追及から原因究明の職場風土を確立しよう！